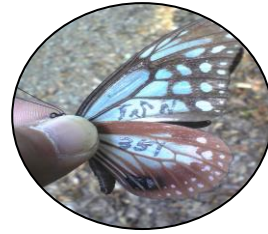


ねいの里 ホオホオニュース



2011年のアサギマダラ・マーキング

2011年12月28日現在

富山アサギマダラ調査グループ

10年目を迎えたマーキング活動、今年は過去最大であった2005年の992頭を大幅に上回る1590頭、県外で再捕獲されたアサギマダラも12月末現在30頭と（過去最大は9頭）大きな成果をあげました。過去4年間の実績は次のとおりです。

| 回数 | 年 | 調査参加者 (登録者数) | マーキング数 (捕獲数) | 県外で再捕獲 されたもの | 再捕獲したもの (県外で放蝶) |
|------|-------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 第7回 | 2008年 | 35名 | 530 | 7 | 1頭 |
| 第8回 | 2009年 | 40名 | 506 | 4 | 0 |
| 第9回 | 2010年 | 38名 | 425 | 7 | 0 |
| 第10回 | 2011年 | 34名 | 1,590 | 30 | 4 |

1 今年の捕獲時期

今年の最も早いマーキング 6月6日 魚津市片貝川 ♂ 薬師正人さん
 今年の最終マーキング 10月4日 黒部市僧ヶ岳林道 ♂ 藤条好夫さん

2 マーキング場所

前述した様に今年は過去最大の1590頭にマーキングを行い、その内の約半数764頭が黒部市の僧ヶ岳でした、次いで有峰の453頭となっています。その他医王山や白木峰などでマーキングされました。

3 有峰での放蝶イベント

2011年9月11日(日)、「有峰の自然を探る」の行事で、ジュニアナチュラリスト19名を含む28名の参加でマーキング調査を行い174頭にマーキングを行いました。(昨年は3頭のみ) この中から始めて3頭再捕獲され、該当者は大変喜んでます。

4 今年の再捕獲データ

(1) 県外で再捕獲されたもの(30頭)
 県別再捕獲数(再捕獲数順)

| No | 再捕獲県 | 最大距離 km | 再捕獲数 頭 | No | 再捕獲県 | 最大距離 km | 再捕獲数 頭 |
|----|------|------------|-----------|----|------|------------|-----------|
| 1 | 高知県 | 612 | 8 | 7 | 三重県 | 220 | 1 |
| 2 | 愛知県 | 604 | 4 | 8 | 大分県 | 609 | 1 |
| 3 | 石川県 | 70 | 4 | 9 | 長野県 | 35 | 1 |
| 4 | 鹿児島県 | 1148 | 3 | 10 | 大分県 | 609 | 1 |
| 5 | 兵庫県 | 296 | 2 | 11 | 山口県 | 552 | 1 |
| 6 | 徳島県 | 515 | 2 | 12 | 京都府 | 258 | 1 |

(2) 県外で他県の調査員により放蝶され当グループが再捕獲したもの 4頭

5 特記事項

今年はマーキング数及び再捕獲数も過去最高となりました、現在この原因については調査出来ませんが、今後全国の状態も含めて情報収集を行いたいと考えています。

(事務局：富山県自然博物館ねいの里 担当 宮田)

里の山つっこに

ロシア渡り鳥交流に参加して

中学1年 藤井 雄太

2011年8月19日から27日の8日間、日本鳥類保護連盟富山県支部の渡り鳥調査交流としてロシアに行ってきた。

乗った飛行機に酔いながらも、ロシアの土を無事に踏むことができた。ロシアの人々は、不慣れな私たちにとてもフレンドリーに接してくれた。ロシアに来てから緊張していた私にとってはとても救いになった。

2日目から調査を始め、貴重な蝶や植物を多く見ることができた。拠点の近くには日本ではなかなか見ることのできない、広大な森林が広がっていた。その森林には様々な生態系が構築されていて、カエルやゴジュウカラ、リスなども多く生息していた

目的の一つの渡り鳥調査では、鳥を傷つけずに捕獲する為、あらかじめ張った網を一日に3、4回見に行くのだ。もし鳥がかかっていたら、傷つけないよう慎重に網から取り出し、個体の特徴を記入後調査リングを付けて放鳥するというものだった。今回の貴重な体験は私の中に一生残るだろう。



捕獲ネット張りを手伝う藤井や日本側参加者(ジュニアナチュラリスト)

活動をふりかえり

「ネーチャーゲームで遊ぼう」11月6日

久しぶりに自然塾の会でネーチャーゲームを取り上げました。担当の川上さんの提案で、園内の植物の葉をスタンプにし似顔絵を作ります。参加者は見本を参考に同じ葉で画用紙の上に顔を作ります。当日は雨で肌寒さもあり大変でしたが、使われた7種の葉を探していただきました。特にマユに使ったシダは難しかったようでした。各々採取した葉で似顔絵を作り展示しました。同じ葉でもそれぞれの個性ある作品となりました。



出来上がった作品例

記：長谷川 寛

「木の実でクラフト作り」12月3日

僕は、木の実で龍と恐竜を作りました。難しかったところは、木の実をホットボンドで付ける作業です。付ける時に触って熱かったり、すぐにとれてしまったりしました。しばらく押さえたり、逆さまにしたりしました。目や口、角を付けると龍らしくなり、自分でもとても上手に出来たなどおもいました。恐竜はウロコの部分が難しく、ひまわりの種を沢山付けました。角の部分は、松の実を半分に切って付けました。いろいろな木の実を、使い方を考えながら作り、自分の満足のいく作品が出来、とても楽しかったです



河南君の作品 恐竜

記：河南 翔大(ジュニアナチュラリスト)

自然塾の会 (ねいの里ホームページで活動を紹介しています。)

毎月第1土曜日が活動日です。

お気軽にねいの里へお越しください! (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)
 昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんでわいわい楽しく食べましょう。

| 2月5日(日) | 3月11日(日) |
|--|--|
| ○ 午前9時30分 ~ 12時 ・ 生き物との共生セミナー 「動物の体を知る・愛でる」 大型哺乳類の生態や体の仕組みなどを学びます。 講師：野生鳥獣共生管理員 間宮 寿頼 氏 ねいの里と共催行事です。 | ○ 午前9時 ~ 12時 ・ 春一番の生き物観察・総会 ホクリクサンショウオやヤマアカガエルなど春一番の生き物を観察します。 観察会終了後自然塾の会総会を行います。 |
| 参加者/定員なし | 参加者/定員なし |

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

ねいの里行事予定

| 1月4日(水) ~ 6日(金) | 2月5日(日) |
|--|---|
| ○ 午前9時 ~ 17時 ・ 春の七草を愛でる(七草の頒布) 頒布価格は200円/セットです。 | ○ 午前9時30分 ~ 12時 ・ 生き物との共生セミナー「動物の体を知る」 自然塾の会と共催行事です。 |
| 頒布数 200セット(事前申し込み) 一人 2パックまで | 定員 なし(事前申し込み) |

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

- 12月13日 ~ 1月16日 春の七草実物展
- 12月17日 ~ 3月31日 ネイチャーフォト展 自然塾の会写真展

■ お願い ■

- 会員の駐車場利用について
 会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラルリスト駐車場を利用する事が出来ます。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝
 〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内
 Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
 ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第24号
 2012年1月1日
 生き物ふれあい自然塾

新年あけましておめでとう御座います。ねいの里今年もよろしくお祈りします。



今日のふくろう先生は

岩永 靖典さん (富山県自然解説員)

私のフィールド考・

モウセンゴケの生態



我が家の2階から見える立山連峰、12月になっても山肌は黒い部分が目立つ。室堂平の積雪量は少なく、ライチョウは換羽が進み白くなっているのにハイマツの下で採餌している姿が遅くまで見られた。

ここ数年、立山弥陀ヶ原に行く回数が増えている。湿性植物のいくつかを観察するためである。モウセンゴケもその1つ。自然博物館・ねいの里にも生育場所がある。九州から北海道まで生育分布しており、食虫植物としてもよく知られている。

弥陀ヶ原では平均4~5mの積雪、雪解けとともに、芽を伸ばし6~7月には葉を伸ばす。葉のふちには粘液を持った腺毛があり昆虫を捕らえる。根を持ちながら、なぜ虫を捕らえる必要があるのかと思うが、泥炭層の上の貧弱な土壌からは花を咲かせる必須栄養素が不足しているのだと考えられる。

腺毛には粘液がありハエの仲間やガガンボがよく捕らえられている。腺毛は200本もあるという。逃げようともがく刺激で、腺毛が屈曲し葉の中央に取り囲み胃袋のように消化液を出し養分を吸い取る。試しに小さな枝や石粒を付けても腺毛の動きはなかった。

ゼンマイの形の花芽をつける。まっすぐに伸びた先に白い花を一日に一花咲く。弥陀ヶ原の紅葉季節の頃には、来年の芽をつくりロゼット状に地面に倒れ枯れてしまう。

モウセンゴケはミズゴケと共に生育している植物、葉を付け光合成をしているのに虫を捕らえる。私にとっては興味のある植物である。地面にへばりつくようにして生育している植物、写真も這いつくばって撮らなければならない。



アリを捕獲したモウセンゴケ

植物に眼を近づけて観察すると、図鑑では見られない生態が発見できるのでは? 去年は美女平で、ギンリョウソウやショウキランなど豊かな森を象徴する植物達を観察した。2011. 10月に立山町で「立山弥陀ヶ原・大日平(仮称)」のラムサール条約湿地登録に向けた説明会がありました。北陸では富山県だけがなかったので登録されればうれしいですね。



モウセンゴケの花

お詫び: 前回23号の菅野紀子さんの文章で末尾が切れておりました。大切な末文でしたので今回の号に記載させていただきます。

「こんなに美しくて良いのかと心に沁みました。次の春の出会いを信じて元気を貰える、桜には桜でなくてはならない何かがあるような気がします。」